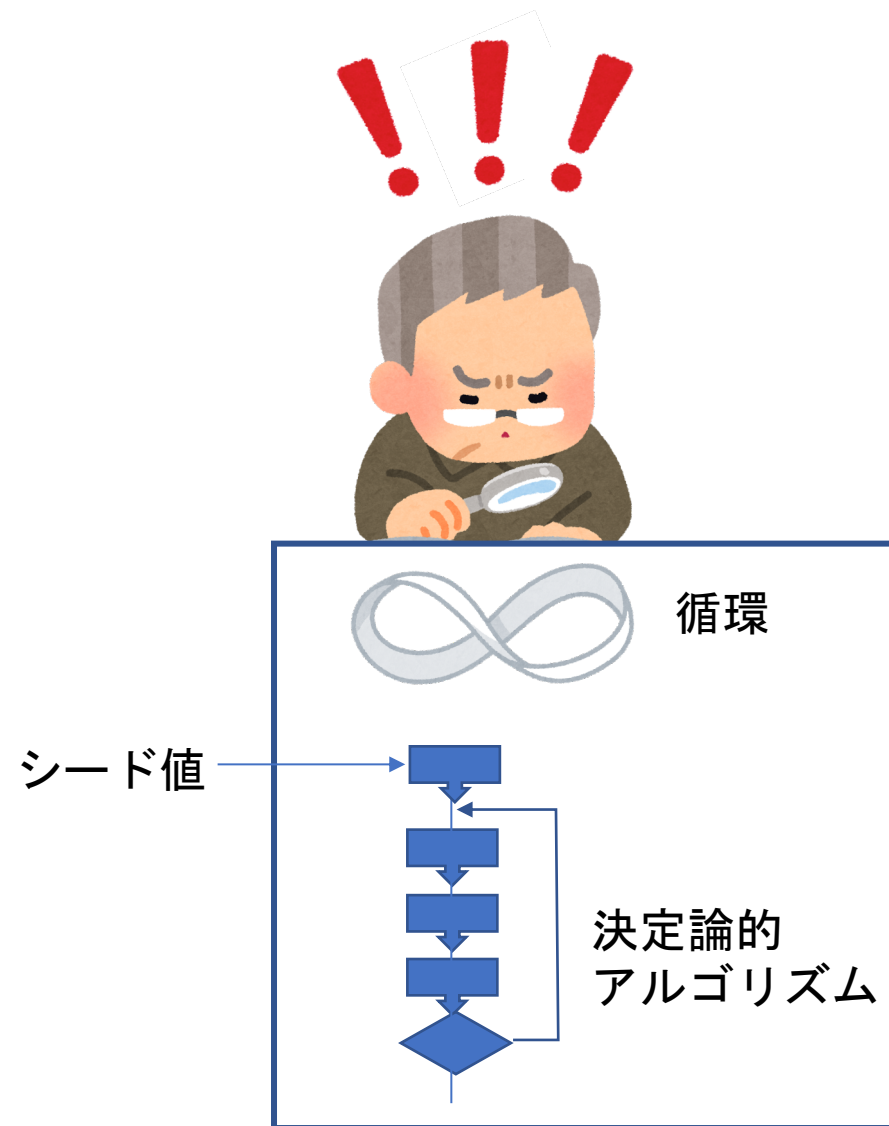


真性乱数



擬似乱数

アルゴリズムとバリエーション		出力長 (bits)	内部状態長 (bits)	ブロック長 (bits)	最大メッセージ長 (bits)	ラウンド数	ビット演算	セキュリティ強度 (bits)
MD5		128	128 (4 × 32)	512	$2^{64} - 1$	64	And, Xor, Rot, Add (mod 2^{32}), Or	<64 (強衝突)
SHA-0		160	160 (5 × 32)	512	$2^{64} - 1$	80	And, Xor, Rot, Add (mod 2^{32}), Or	<80 (強衝突)
SHA-1		160	160 (5 × 32)	512	$2^{64} - 1$	80	And, Xor, Rot, Add (mod 2^{32}), Or	<63 (衝突発見 ^[6])
SHA-2	SHA-224 SHA-256	224 256	256 (8 × 32)	512	$2^{64} - 1$	64	And, Xor, Rot, Add (mod 2^{32}), Or, Shr	112 128
	SHA-384 SHA-512 SHA-512/224 SHA-512/256	384 512 224 256	512 (8 × 64)	1024	$2^{128} - 1$	80	And, Xor, Rot, Add (mod 2^{64}), Or, Shr	192 256 112 128
SHA-3	SHA3-224 SHA3-256 SHA3-384 SHA3-512	224 256 384 512	1600 (5 × 5 × 64)	1152 1088 832 576	制限なし ^[7]	24 ^[8]	And, Xor, Rot, Not	112 128 192 256
	SHAKE128 SHAKE256	d (可変長) d (可変長)		1344 1088				d/2と128のいずれか小さい方 d/2と256のいずれか小さい方

ストリーム暗号

プレーンテキスト

100011010101001000110101000101110101111010010010001101001000

疑似乱数



鍵ストリーム

010010001101010001011101011110100100100011010100010111010111



排他的論理和

||

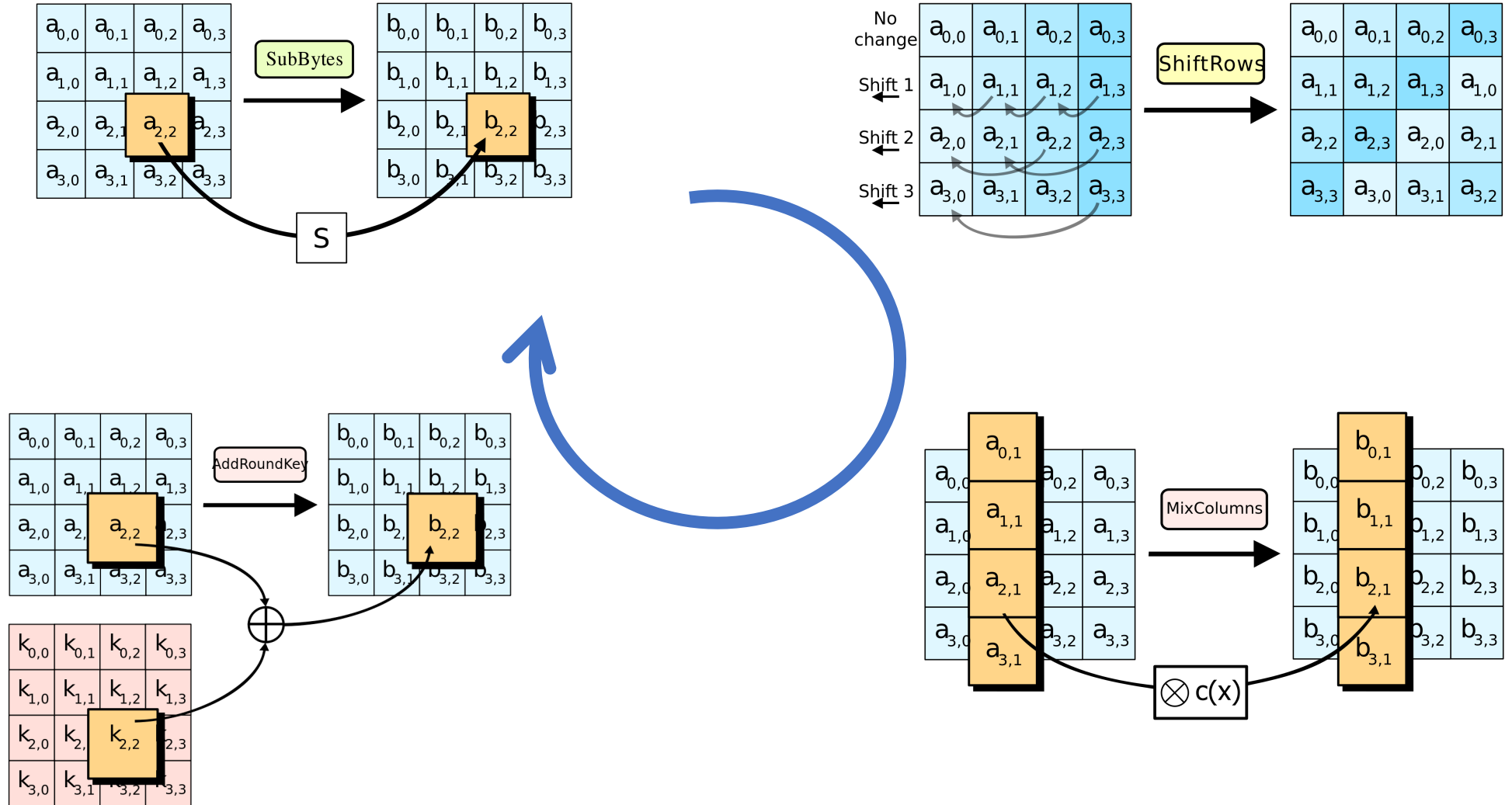
暗号化テキスト

110001010101110101111010100100011010100100100011010100010111

101110

鍵

AES



利用モード

Electronic Codebook (ECB)

Cipher Block Chaining (CBC)

Propagating Cipher Block Chaining (PCBC)

Cipher Feedback (CFB)

Output Feedback (OFB)

Counter (CTR)



元画像



ECBモードでの
暗号化



ECBモード以外での暗号化

右の画像は、CBC、CTRなどECBモード以外での暗号化における結果の例である。ランダムなノイズのように見えることが安全に暗号化されていることを必ずしも意味しないことには注意する必要がある。

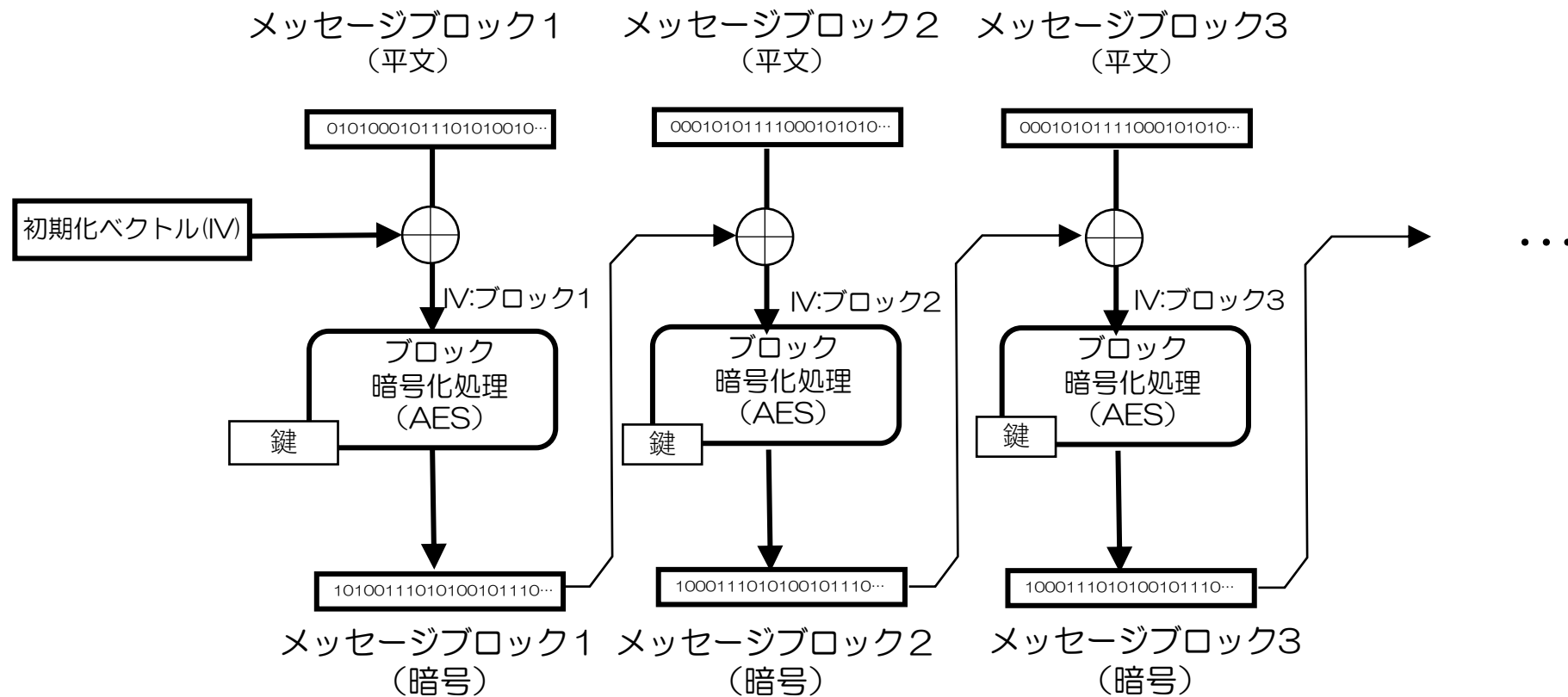


図3-4-2: 暗号ブロック・チェーン(CBC)

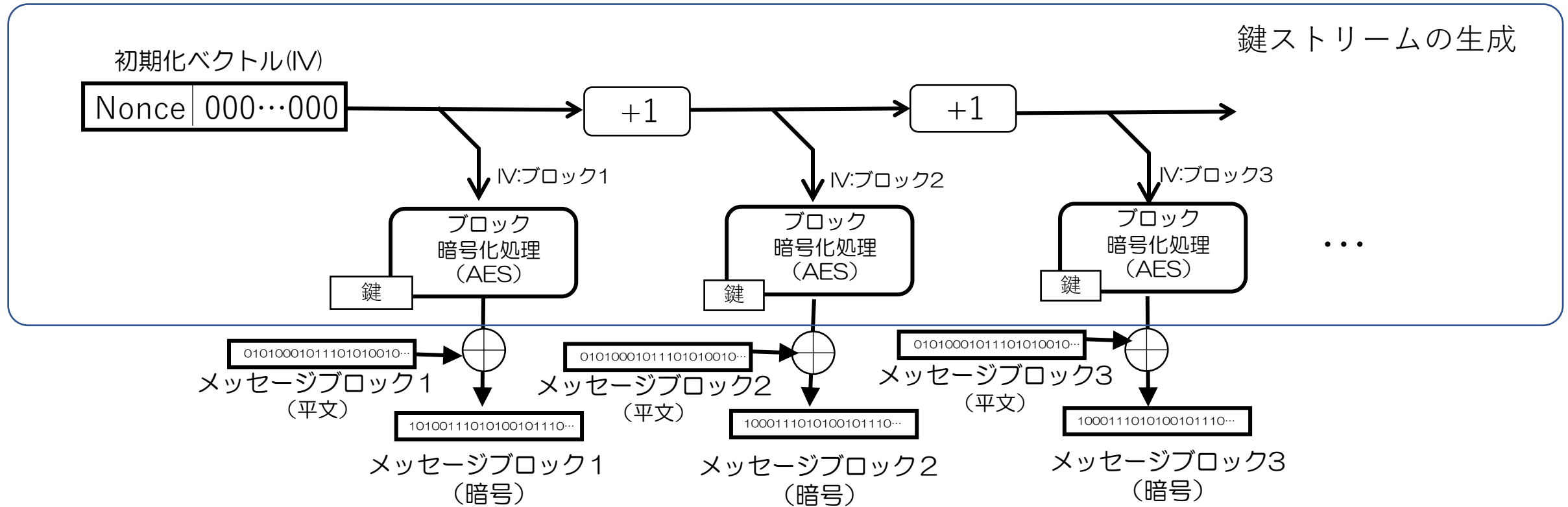


図3-4-3: カウンターモード (CTR)

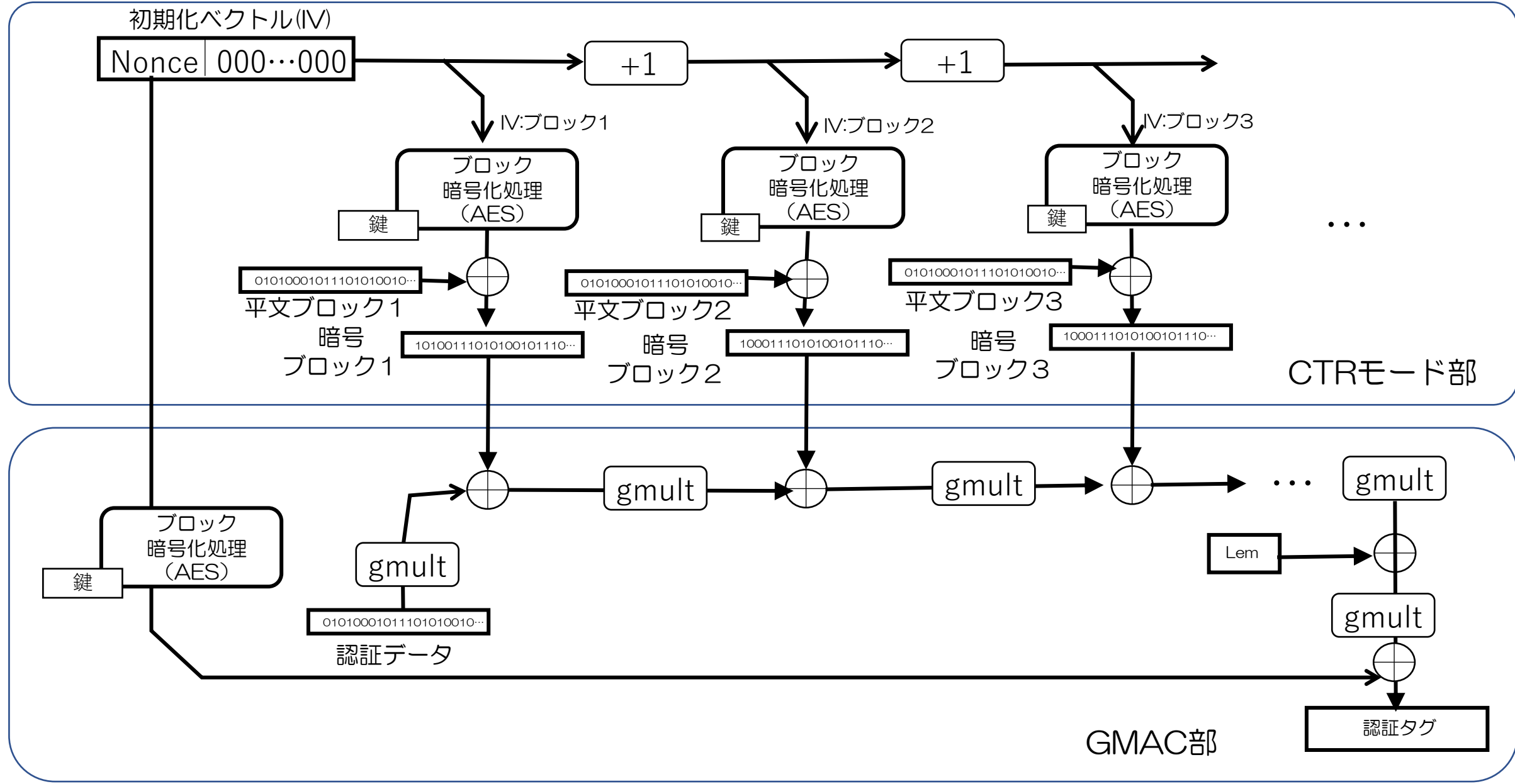
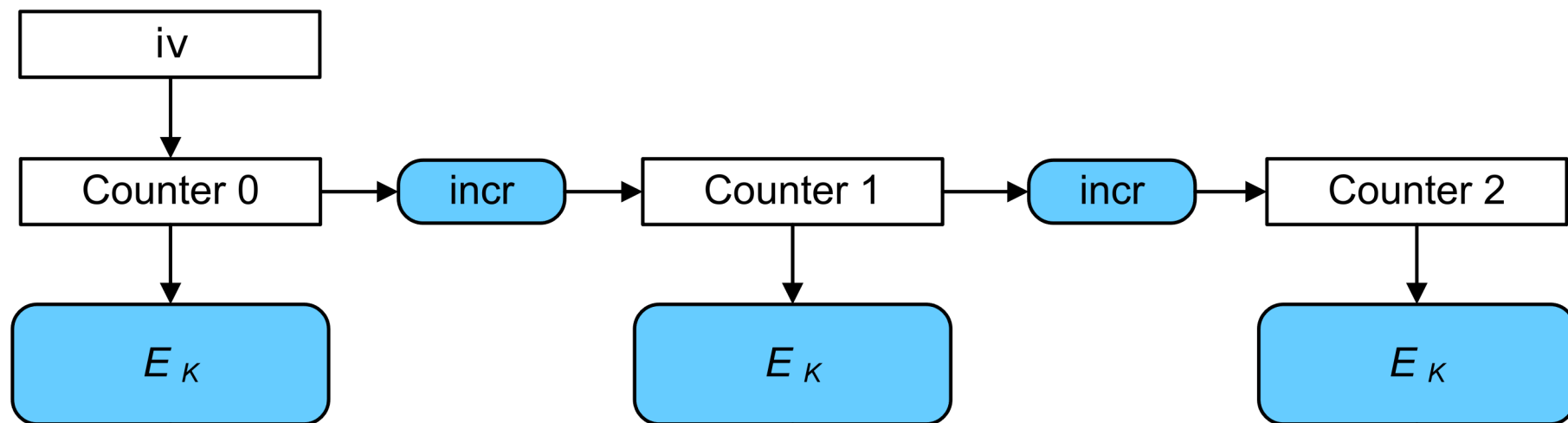
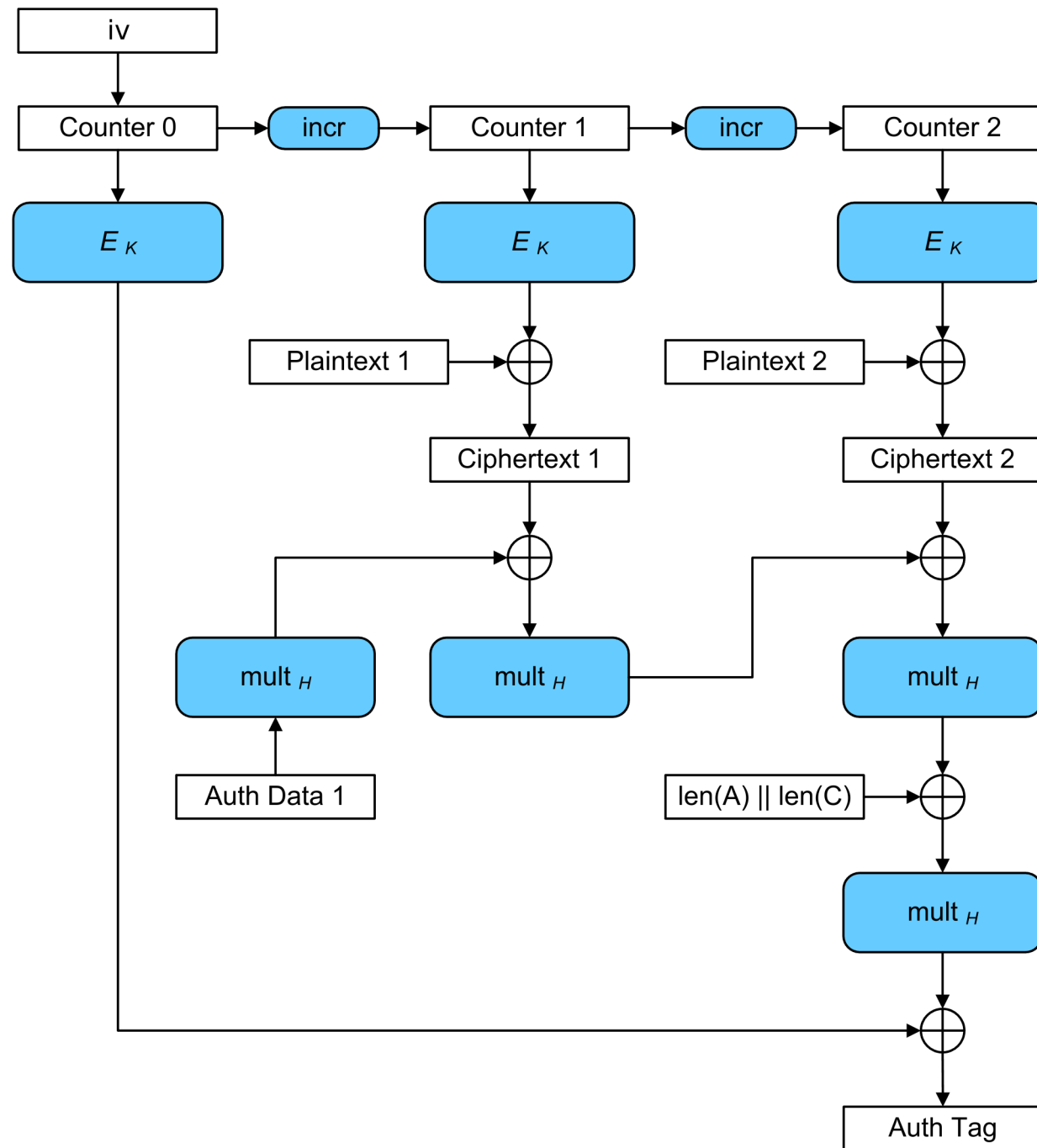


図3-4-4: GCMモード(暗号化)

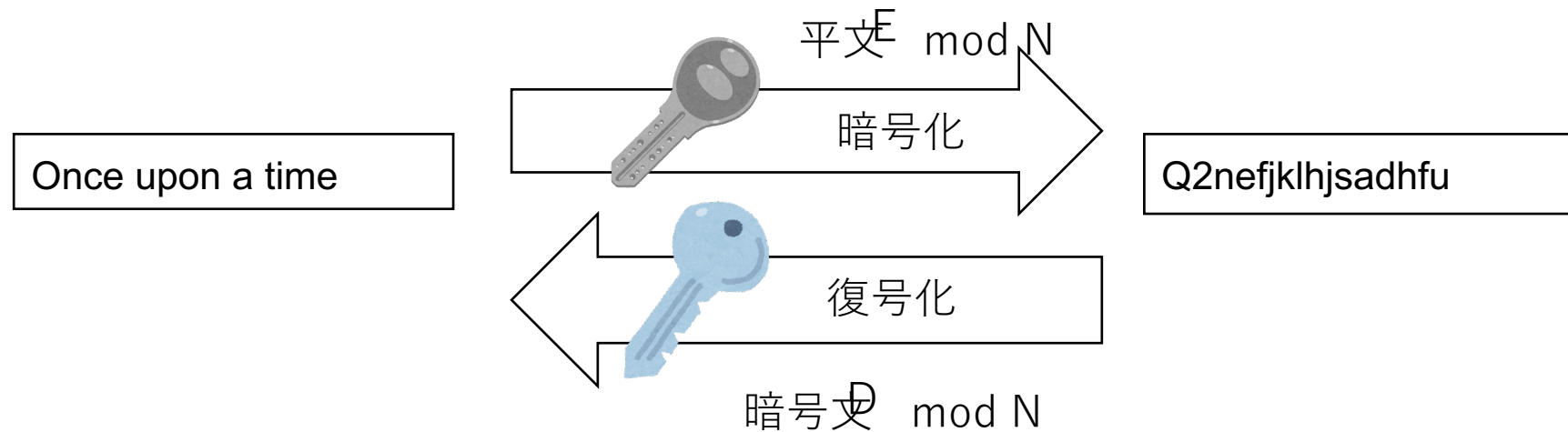
CTRモード



GCM



暗号化鍵: (E, N), 復号化鍵: (D, N)

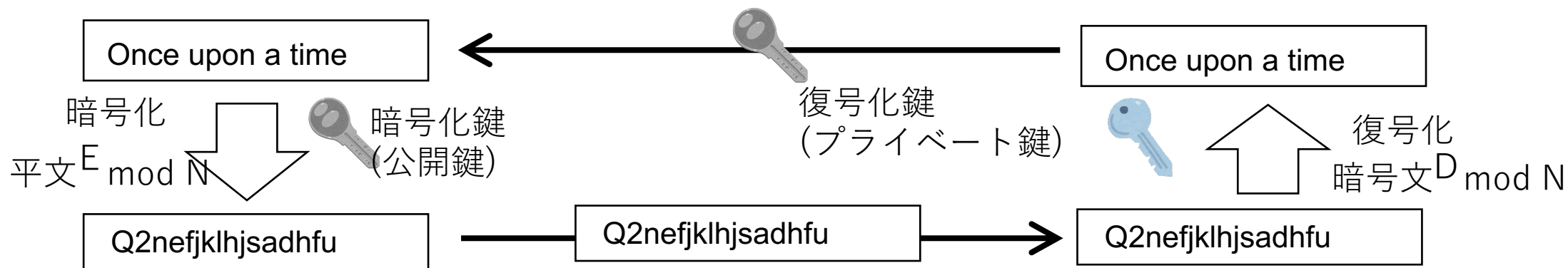


暗号化鍵: (5, 323), 復号化鍵: (29, 323)

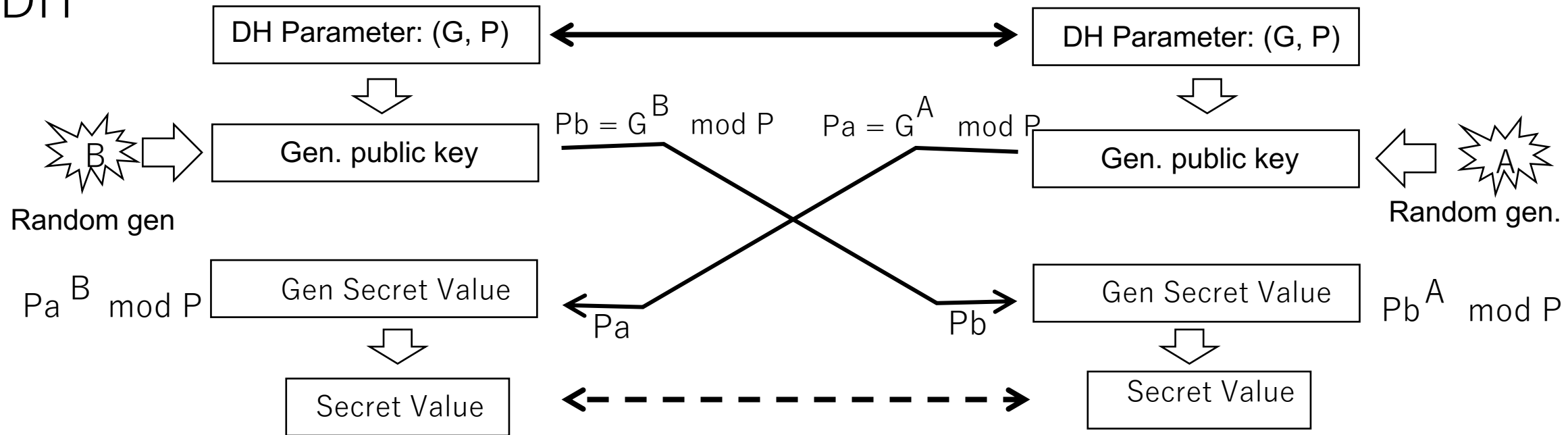
暗号化: 平文⁵ mod 323

復号化: 暗号文²⁹ mod 323

RSA



DH



デジタル署名の目的

1) 真正性

メッセージと署名が正しく対応するものであることの検証

2) 否認防止

署名した正しい署名者によるものであることの検証

1) だけなら、共通鍵によるメッセージ認証コード(MAC)でも可能

2) は公開鍵のみで可能

- 共通鍵では、認証コード生成鍵と検証鍵が同じ

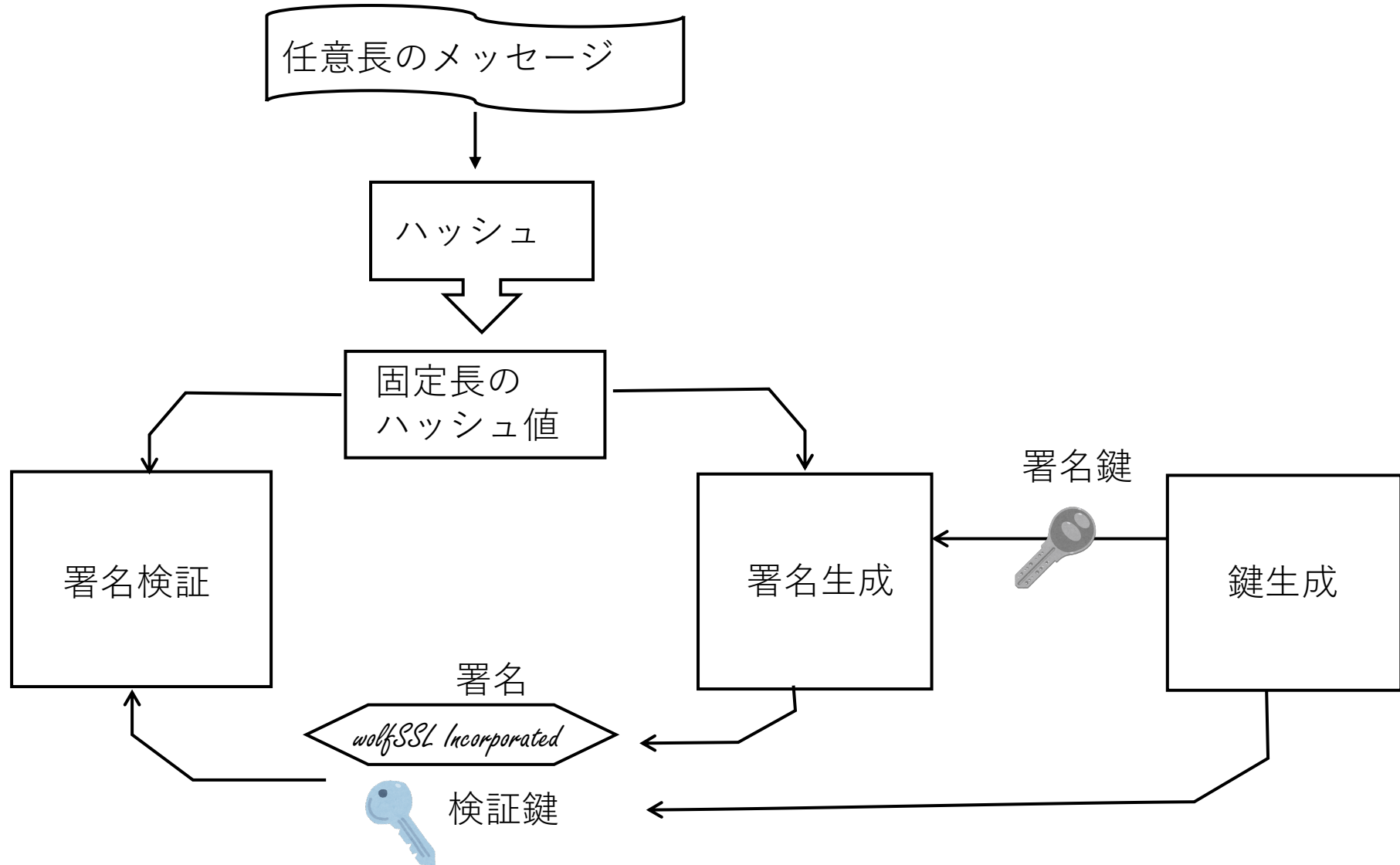
- 検証者が認証コードを生成できる

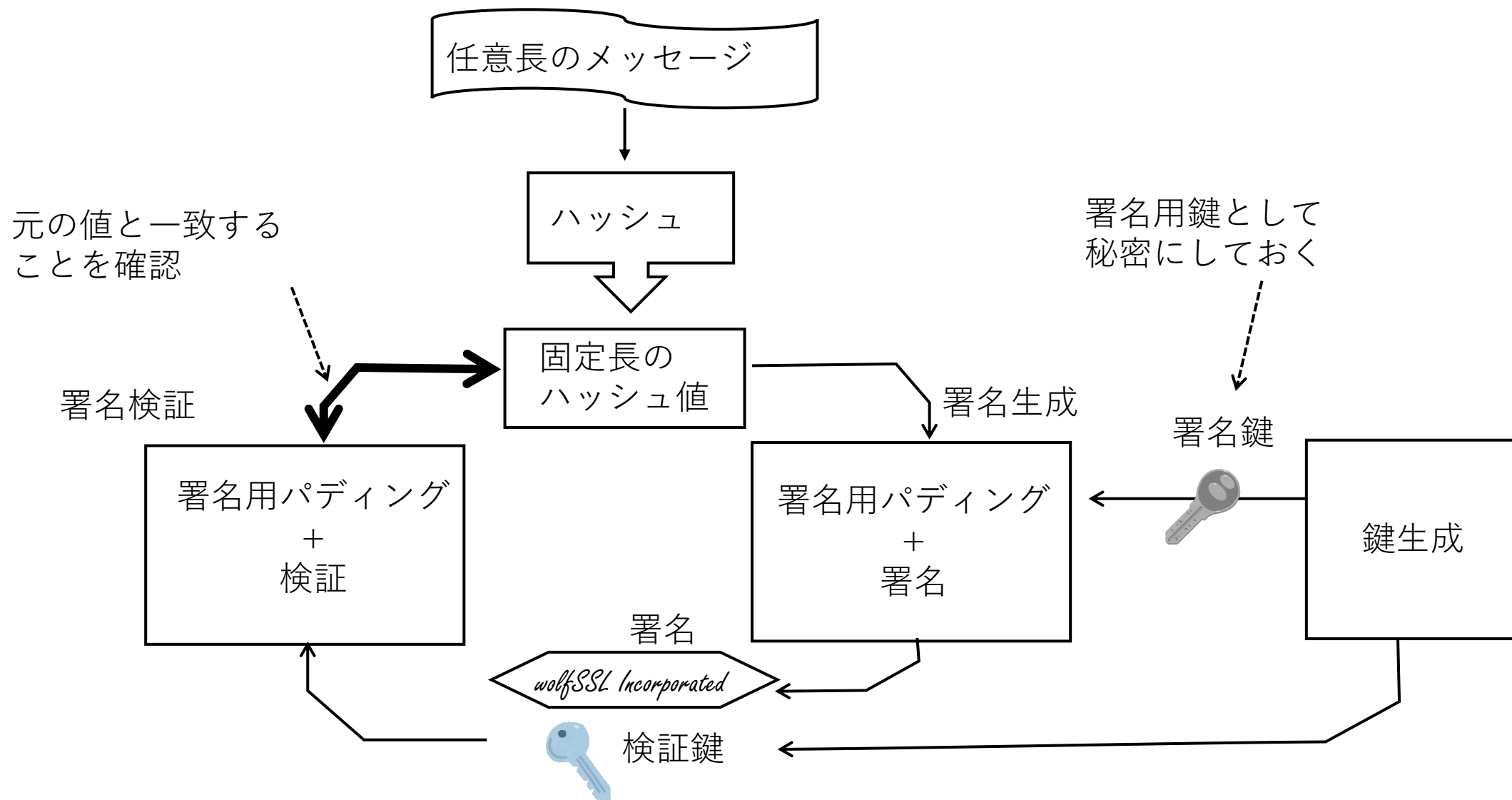
- 公開鍵

- 署名生成鍵と検証鍵が異なる。

- 秘密鍵を持ったものだけが署名可能

デジタル署名のしくみ



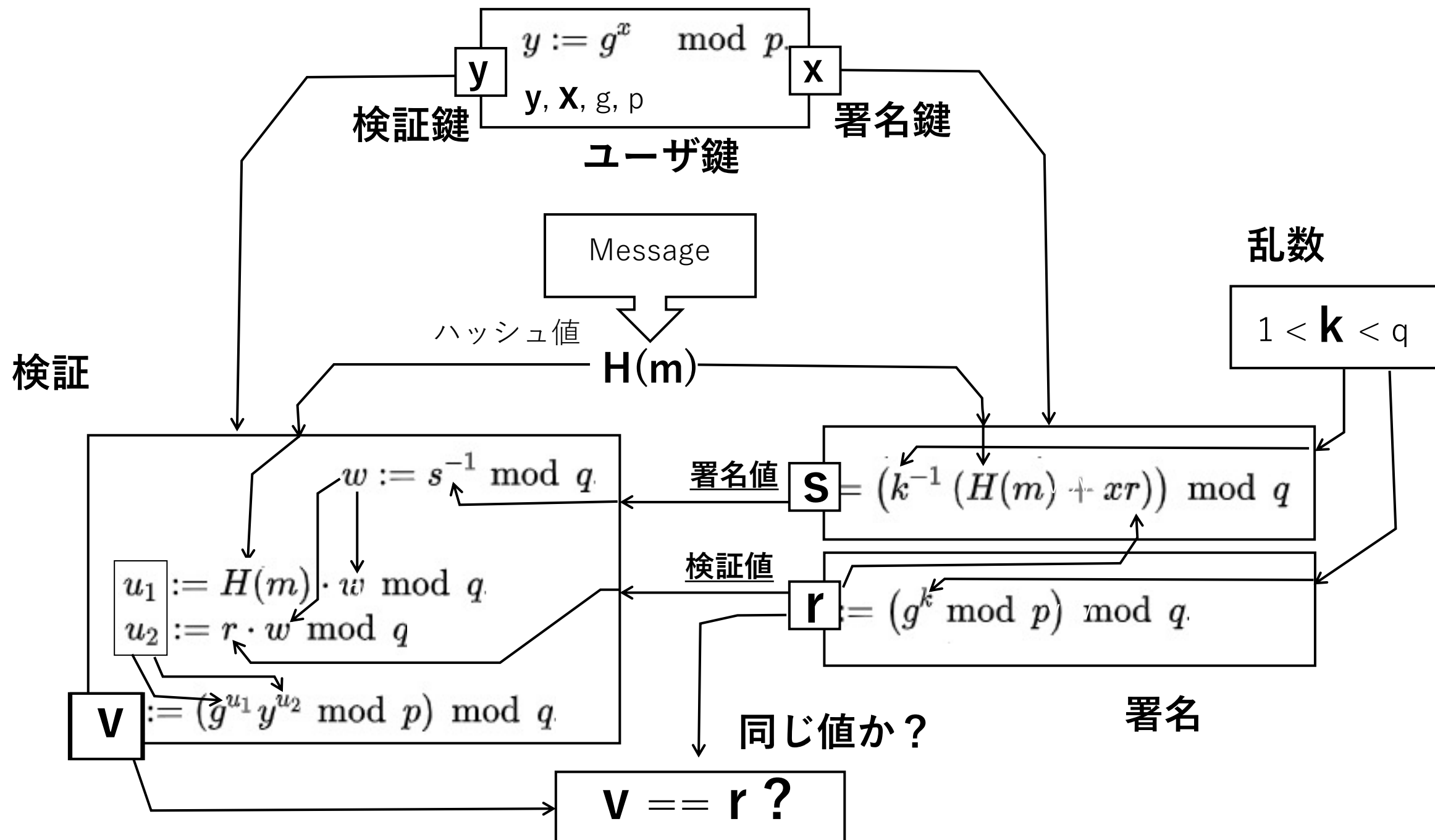


DSA署名

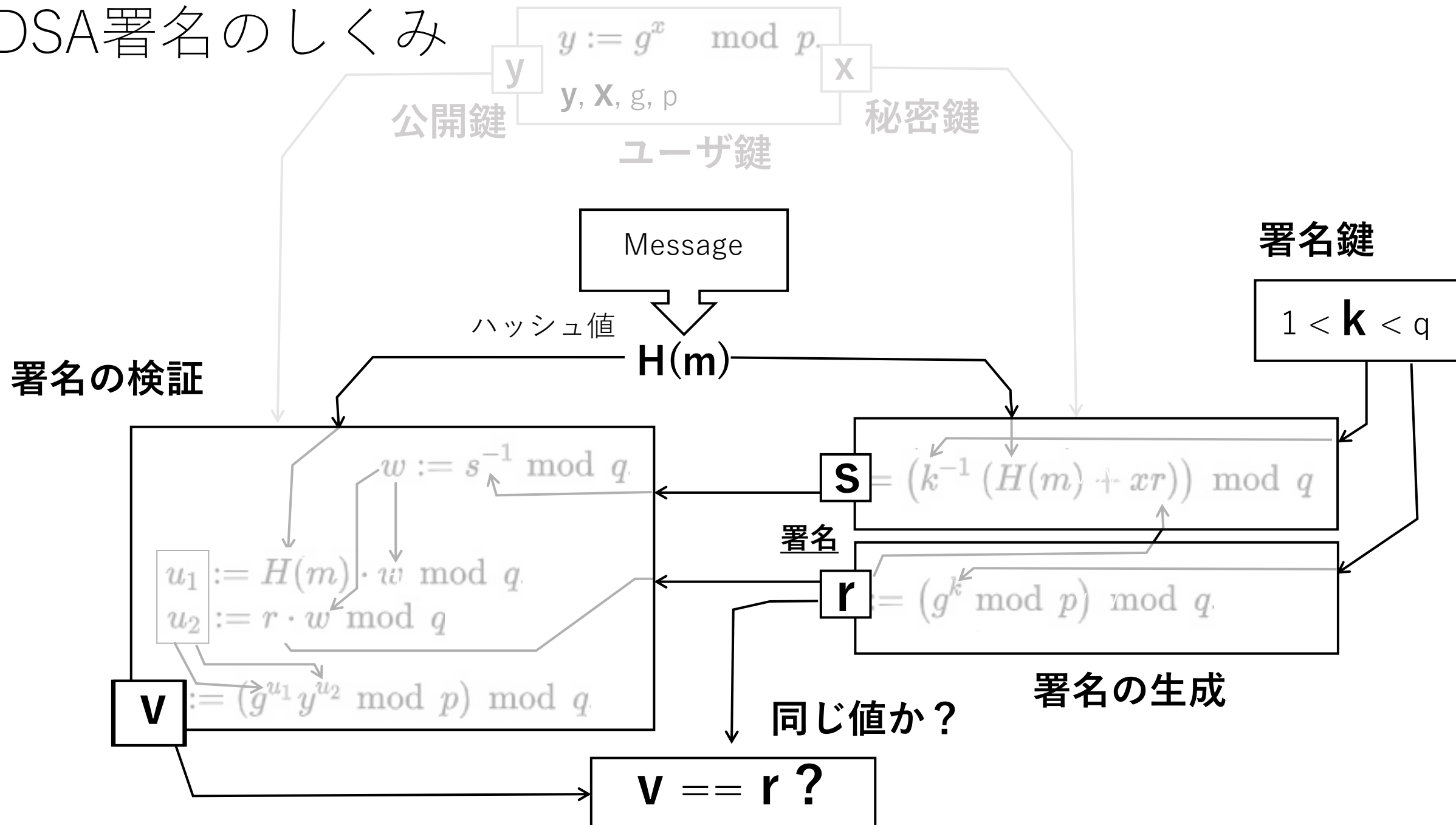
特徴：異なる二つの単方向演算の組合わせで、
同一の値を得ることができることを利用
この意味ではDHと似ている
巡回群を使っていない → パディング不要

しかし、
適切な鍵生成が難しい
鍵生成を誤ると**脆弱性リスク** → 使用推奨されない

一方、
楕円曲線暗号では巡回群は見つかっていない
楕円曲線暗号では、上記のリスク無し
→ **ECDSA, EdDSA**として普及(ECCの章で説明)



DSA署名のしくみ

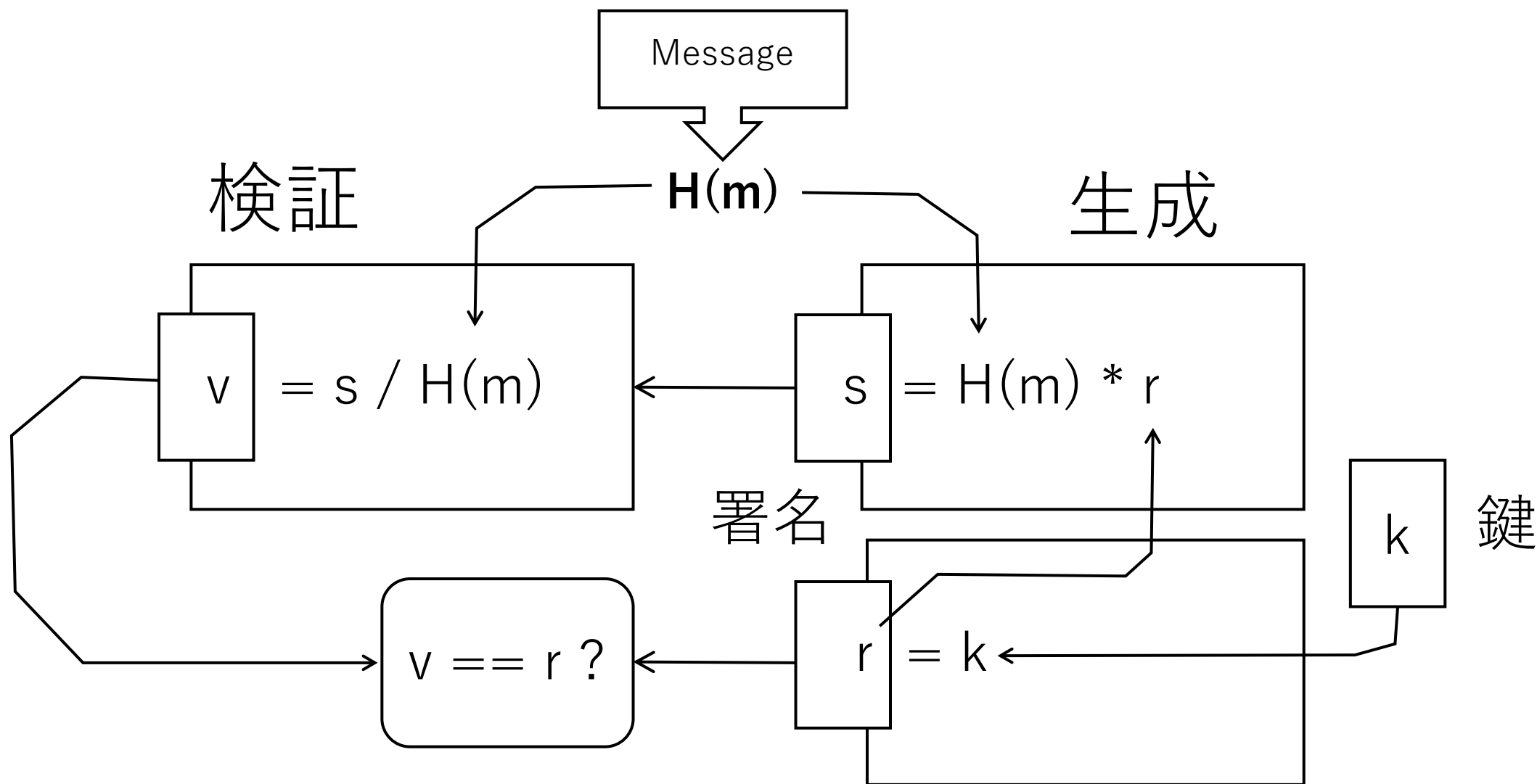


DSAの原理

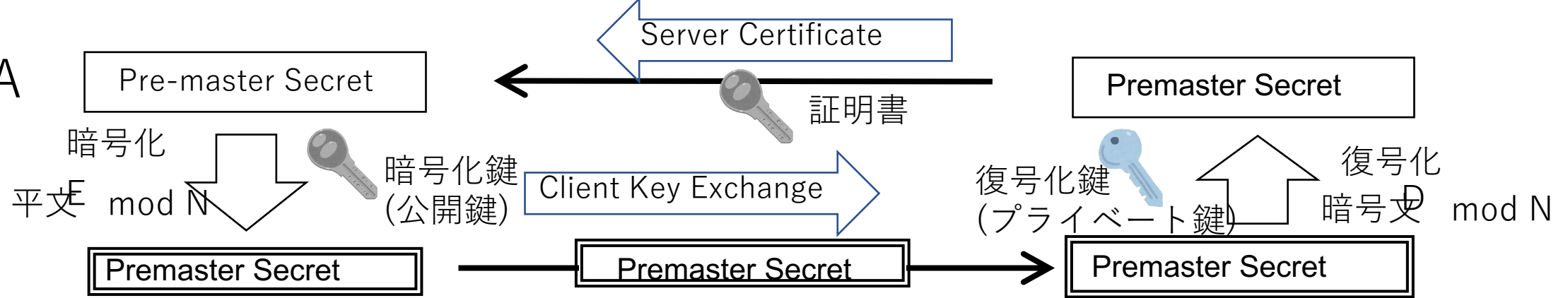
- 署名生成： $H(m)$ と署名鍵 k を入力として署名値 r と s を得る。
- 値 r は鍵 k から求めるべき乗の剰余。公開しても k の秘匿性を保てる。
- 値 s は鍵 k と $H(m)$ とから得て、検証の流れに引き継がれる。
- 検証では、値 s と $H(m)$ を入力として値 v を得る。値 v の計算では $H(m)$ が消し込まれ、結果は署名生成側の値 r と同じ値になる。

改ざんの検出：署名の生成側、検証側の双方の演算途中で $H(m)$ が使われているため、署名の生成、検証の双方で一環した $H(m)$ が与えられないと正しい値 v が得られない。

超絶簡単版DSAもどき

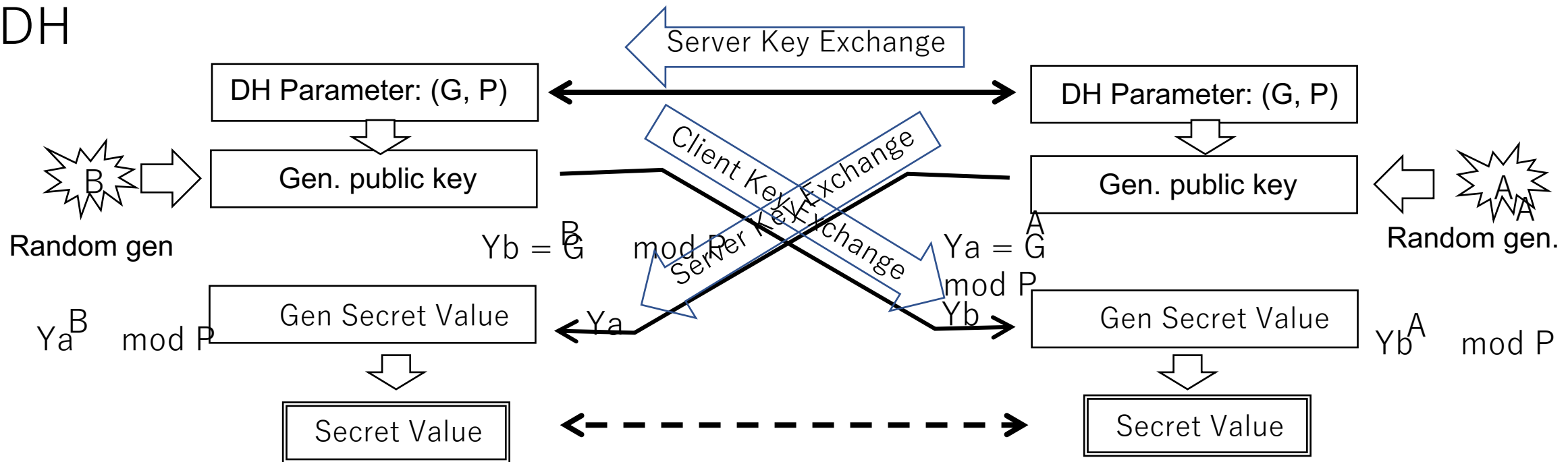


RSA



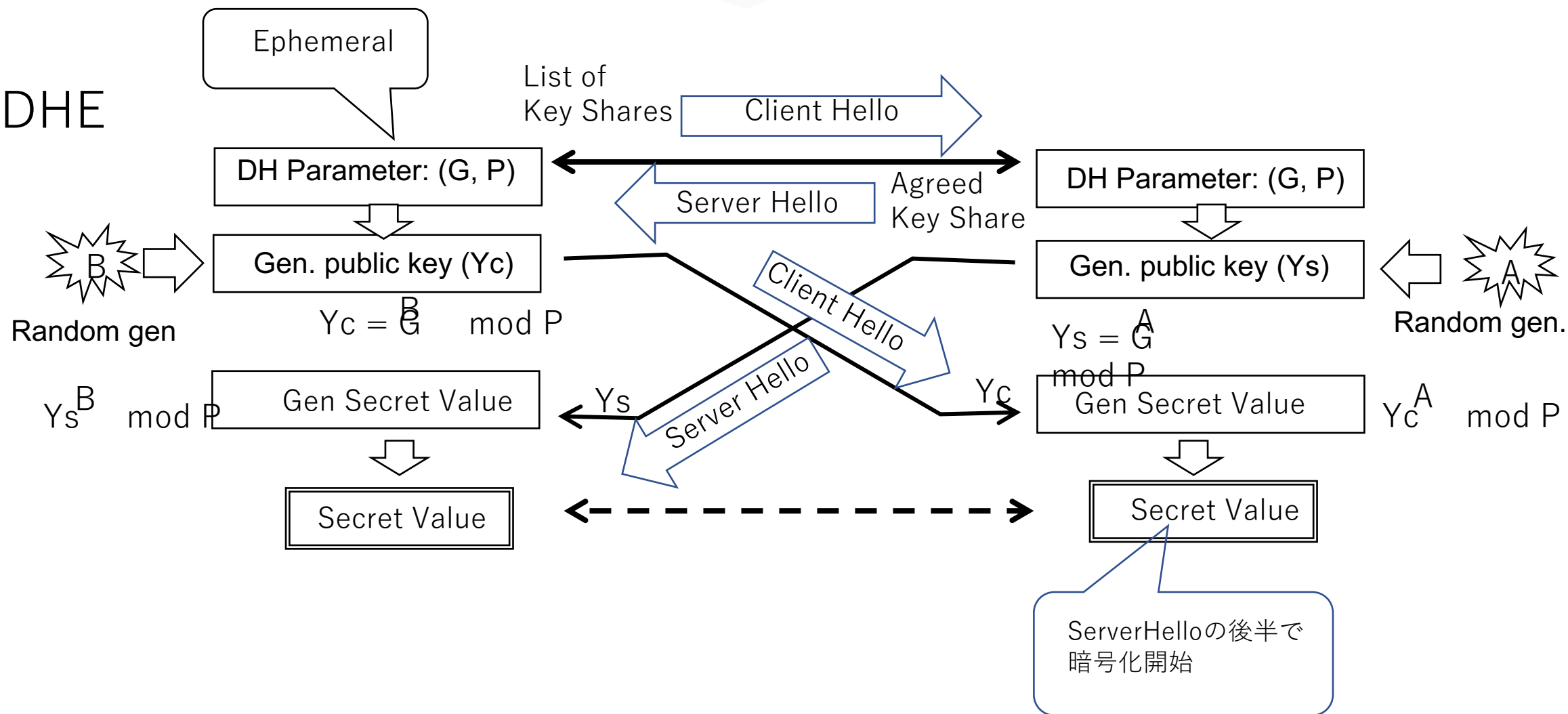
TLS1.2

DH

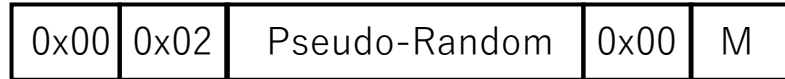


TLS1.3

DHE



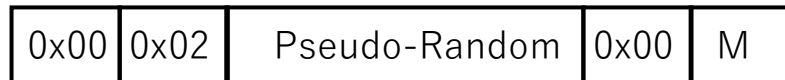
Encryption



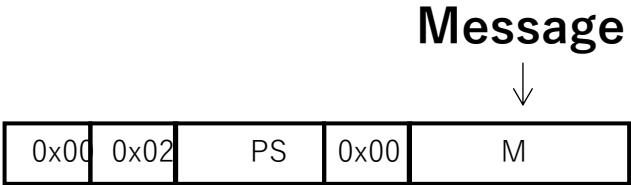
RSAEP

RSADP

Decryption

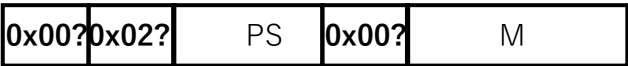


Encryption



RSAEP

RSADP

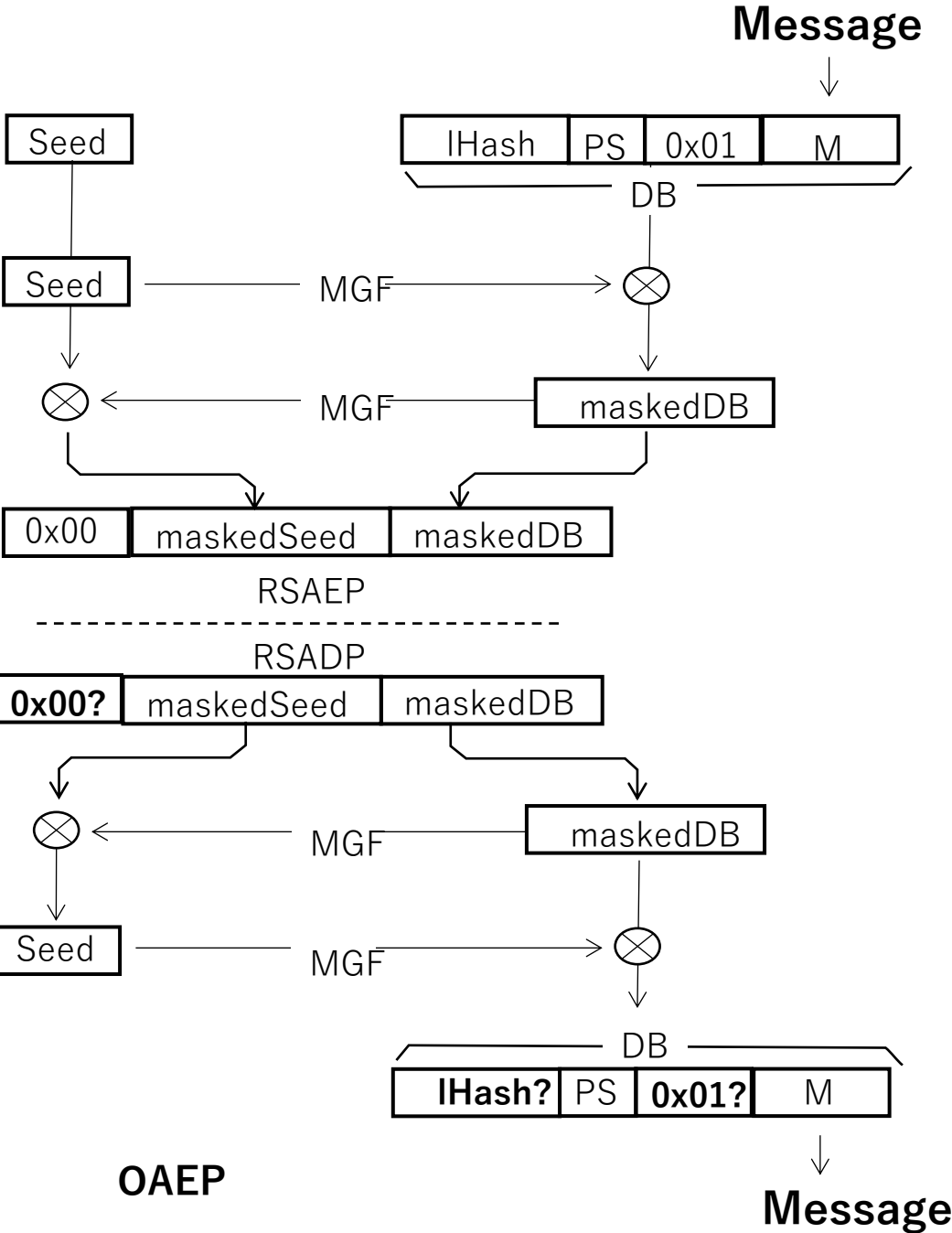


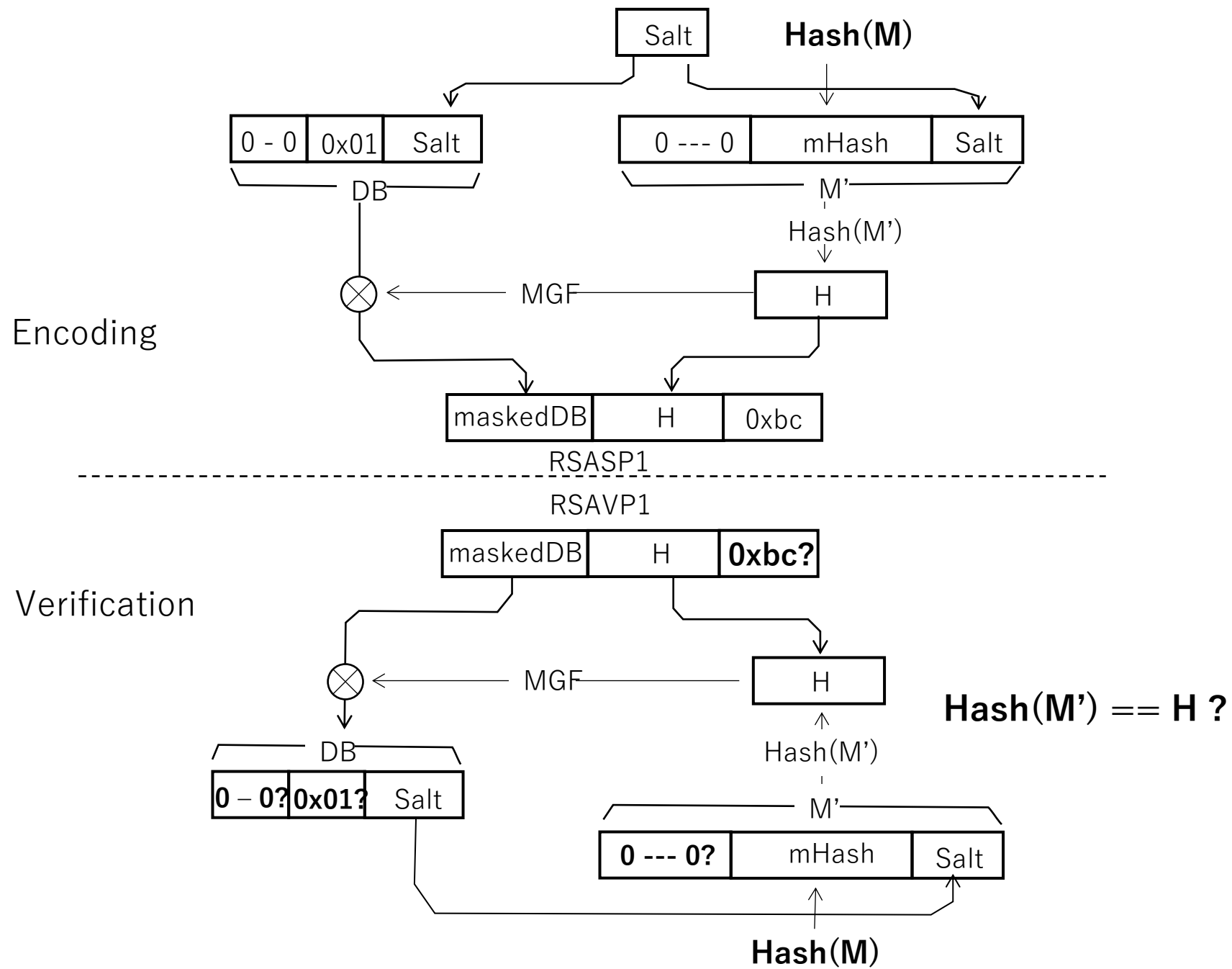
Message

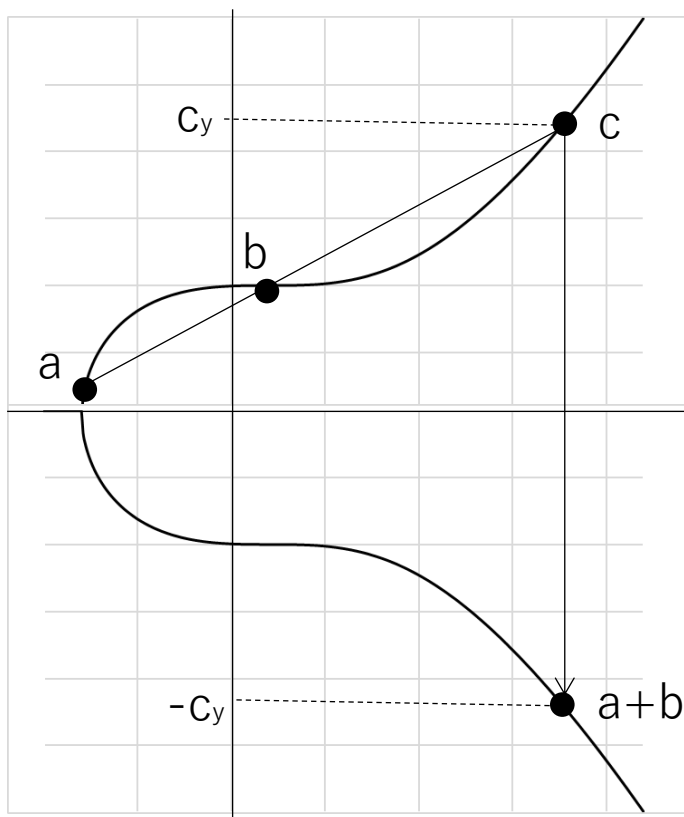
Decryption

PKCS#1 V1.5

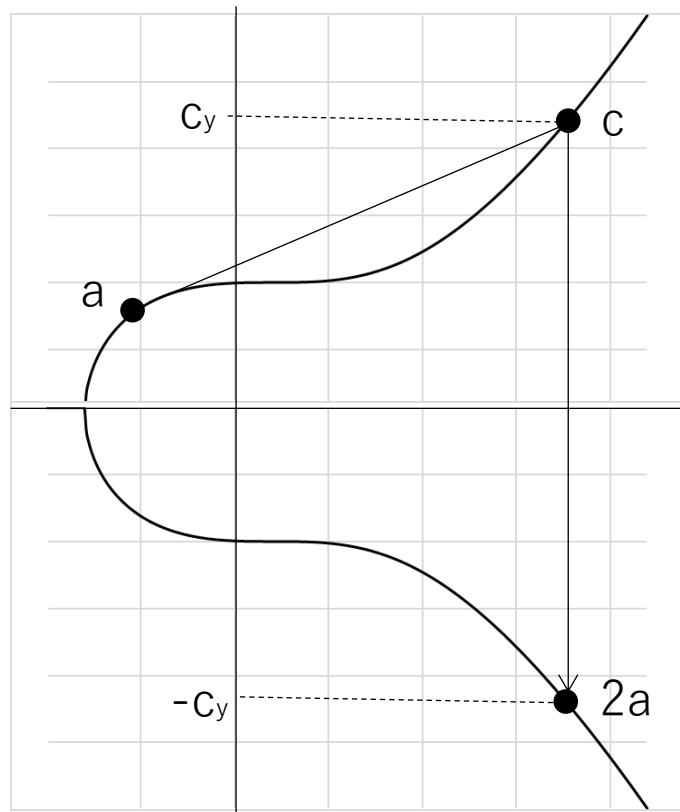
PS: Pseudo-Random



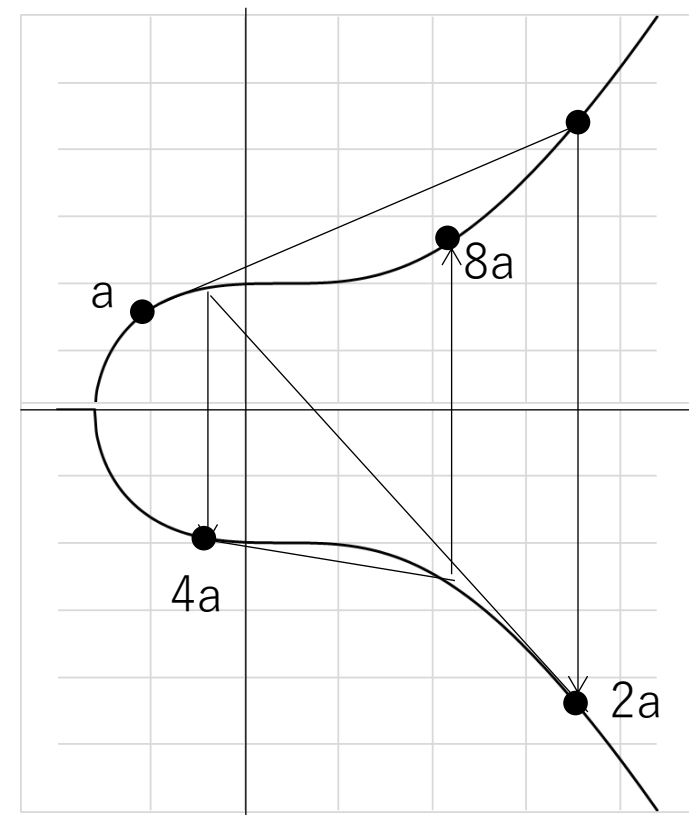




点 a と点 b の加算



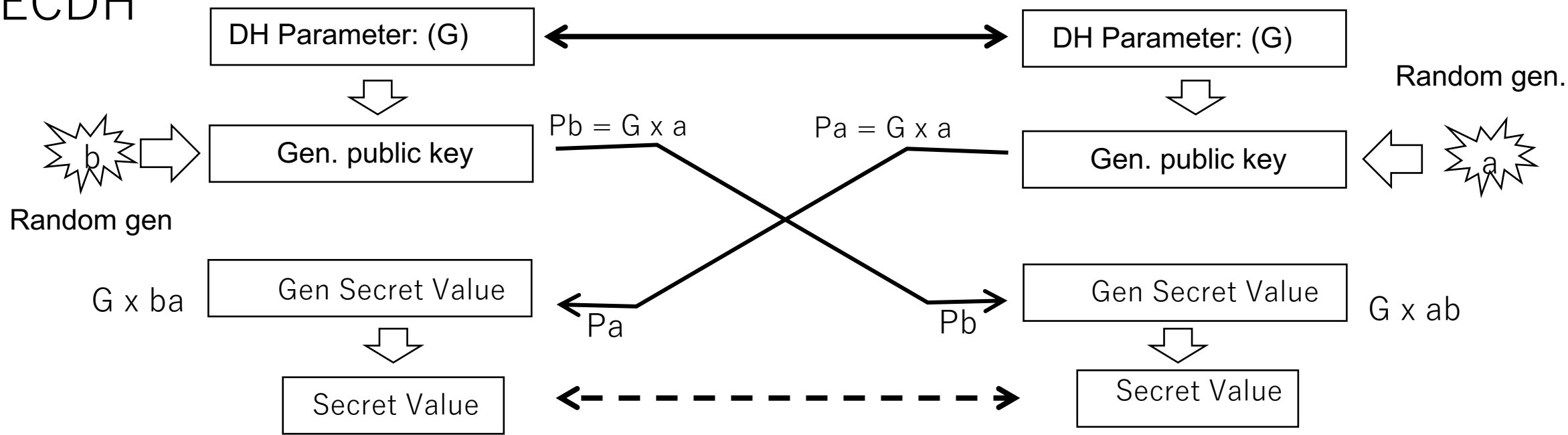
点 $a \times 2$



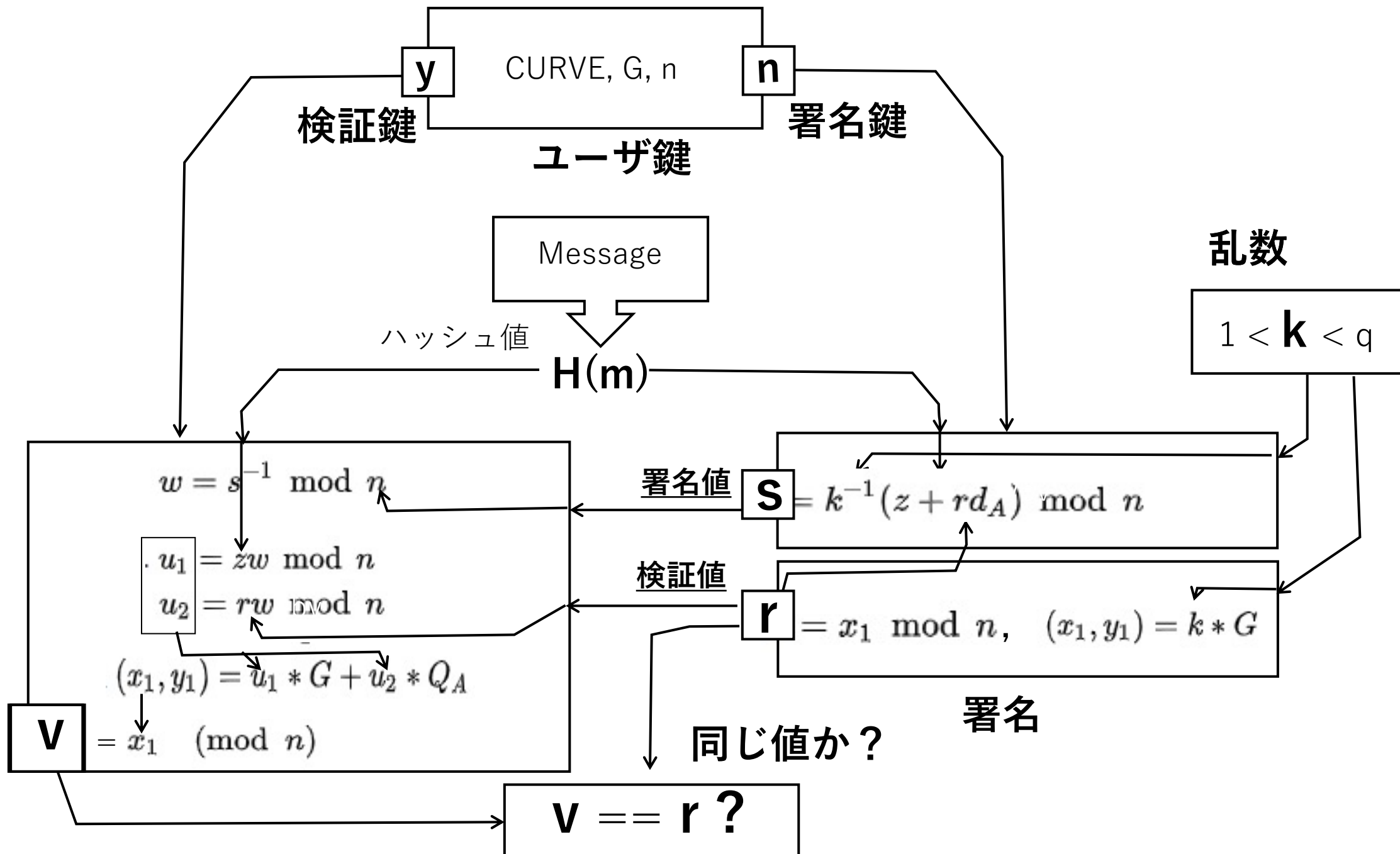
点 $a \times 2^n$

楕円曲線上の演算を定義する

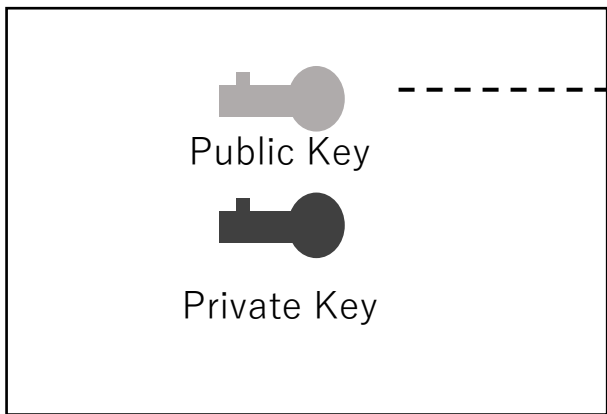
ECDH



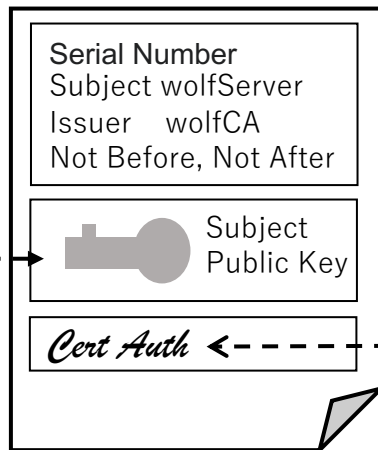
検証



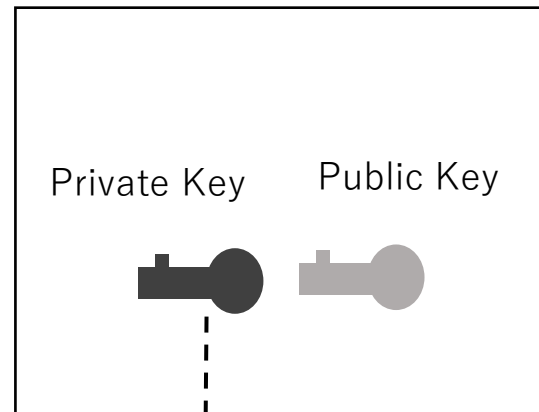
Subject: End Entity



Certificate

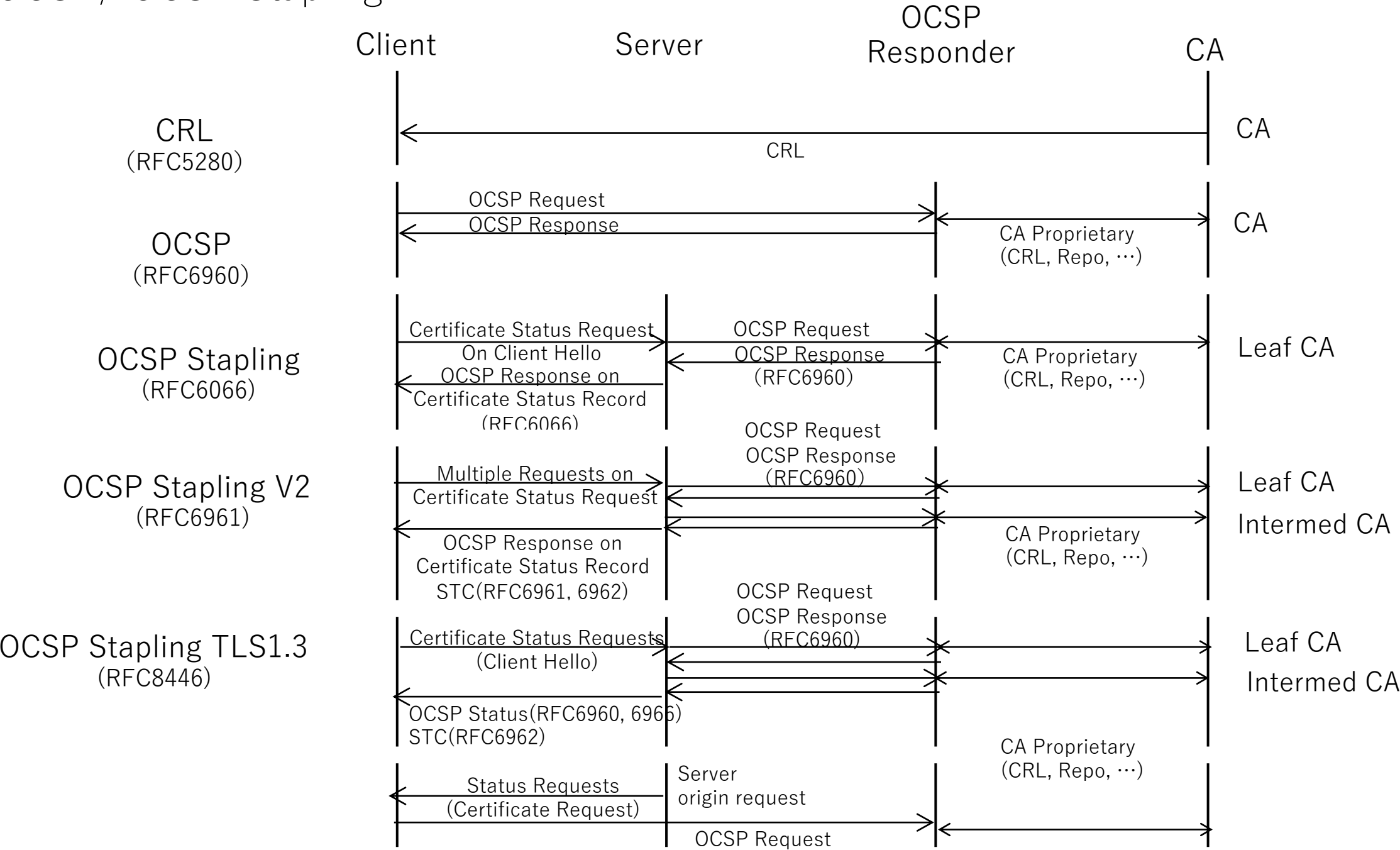


Issuer: CA

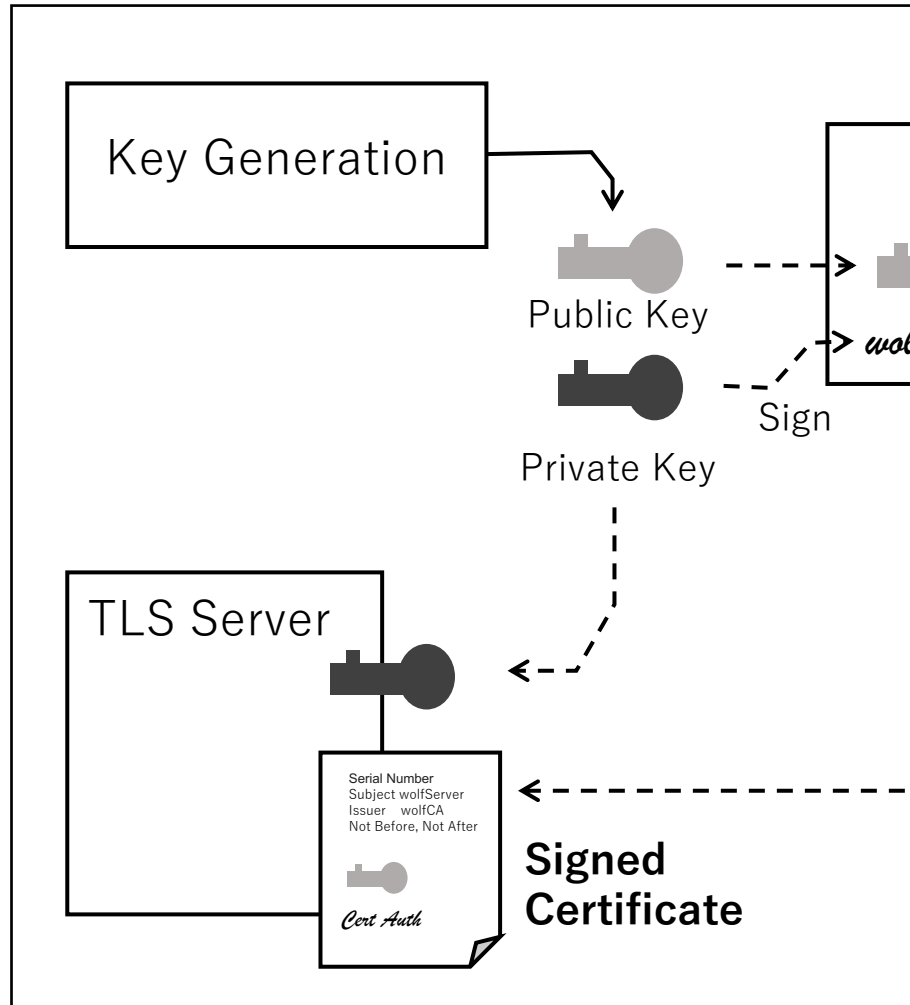


Sign

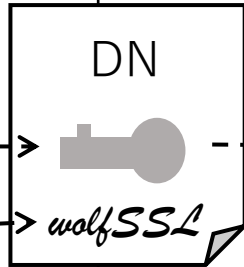
CRT, OCSP, OCSP Stapling



Signature Requester



CSR



Certificate Authority

